



【ダイコン】 ※地中海沿岸、中央アジア、中国

| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 播種 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 収穫 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

■播き時と定植

- 春と秋に種を播（ま）いて育てる。
- 冷涼な気候を好む。生育適温は30℃くらい。（低いほうは5℃、高いほうは30℃くらい）
- 根の太いダイコンは株間をひろく、細いダイコンは狭くする
- 点播きが基本。種は3粒ずつ。片方の手のひらにダイコンの種を持ち、3粒を別の親指と人差し指で摘（つま）み、種を摘まんだ指を整地した土の中に、爪先から最初の関節まで潜らせ、その指を離し、種を落とす。その後、そっと指を持ち上げて、あけてしまったくぼみを埋め戻す。
- 種を播く間隔は春ダイコンで25cm、秋ダイコンで20cm。（※春は秋よりダイコンの葉が伸びるので間隔を広く、秋はダイコンが太くなる頃、霜が降りることもあり、ダイコンの根が凍るのを防ぐためにも葉が密になるように隙間を開けない。）

■育て方のコツ

- 間引きはこまめにする。手のひらを地面につけるようにして指で苗をはさみ、もう一方の手でそっと引いてぬく。（土がいっしょについてこないように）
- 本葉が数枚のびている段階での間引きは、葉が水平までよく開いているもの（開張性）で、葉色が黒っぽく勢いの強い苗を抜く。残すのは本葉があまり開かず、立ち性の苗。黒く勢いのよいダイコンは根が真っすぐに伸びず、すでに分岐していて根群が発達しているため、養分吸収量が多く、まっすぐなダイコンにならない。（＝ゴボウの苗も同じ）
- どのカイワレ（双葉）を間引くかがポイント。ダイコンの養分吸収根は二方向しかない（食べるダイコンを観察すると太い根の表面にほぼ直線状にプツプツと小さな穴が開いている。そこが養分吸収根のついていたところ。180° 反対側をみるとそこにも直線状に小さな穴がついている。）この養分吸収根が伸びている方向は土の中で見えませんが、カイワレ（双葉）の広がっている方向と同じなので、畝（うね）の方向にカイワレ（双葉）が伸びていると養分を吸収しやすくなるのでカイワレ（双葉）が伸びている方向が畝の方向と直角になっているものを間引くと良い。（※葉が虫などで食べられている場合などは例外）
- ダイコンの肥料は少ないほうがよい。
- 食べごろのダイコンは一番外側の葉が水平になったとき。
- 健康でまともなダイコンは養分吸収根が真っすぐ一列に並んでいるか、ほぼ真っすぐだがわずかに曲線になっていること。（それがギュッとねじれているのは根性が曲っている証拠。マズいか辛いかのどちらか。）

■料理のポイント

❖その他